

## より良いセクシュアリティ支援・性教育を思春期対象に実践するプログラム構築 —思春期相談・支援の実践構築に向けて、思春期保健相談士など支援実践者の現況調査—

小山田浩子

Hiroko Oyamada

### 研究目的

近年、子育て支援や児童虐待予防に関しては、注目されると同時に実際に支援するための施策も拡大されつつある。しかし、その予防的思考の基には、おとなになる前の思春期におけるモラルや思いやり、母性・父性育成の必要性やその重要性に医療従事者は気付いている。ただ、重要視されてはいても結果が一目瞭然に見えるわけではないので、施策に繋がりにくい。また、その対象に関する思春期支援者のスキルや指導力向上の必要性を支援者が感じ、切望していても目に見える評価として表現し難い側面がある。

先行研究やボランティア活動で思春期支援・活動や依頼講演を実際に行っている「ハートブレイク」の思春期電話相談や思春期対象などへの活動の報告などからも、思春期対象の性行動・問題行動表出の早期化などの現況が報告され続けている。これらの現況からも、思春期の子どもやこれから将来を担う人たちは世の中を支えていき、変えていく大切な人たちでありその母性・父性育成を支援する思春期保健相談士や支援する方々の役割はとても重要であると考ええる。

また、思春期から妊娠産褥期までの対象における成長過程は分断されたものではなく、男女ともにひとつのラインで繋がっている。母性・父性育成の関りのスタートとなる思春期の対象への支援実践プログラムを、ボランティア思春期相談活動の一員である研究者がハートブレイクの活動代表者やメンバーとともに、研修活動の支援と研修再構築を企画し、実践評価を進めたいと考える。思春期対象の支援の実践プログラムを開発するに当たり、今回は現況調査を実施し、今後の研修プログラムに必要なエッセンスを抽出していき、新企画を構築・実践・評価を実施し、ステップアップを続けながら提唱していきたいと考えている。なお、この研究調査に際しては、大阪市立大学看護学研究科倫理審査会の審査・承認を受

けて実施した。

### 調査結果

今回は、ハートブレイク通信を定期的に送付している思春期保健相談士など思春期支援実践者などに郵送にて511名に送付し、調査に賛同を得て回答した84名の結果を述べる。

#### 1. 対象の背景

回答した84名のうち女性81名、男性2名、無記入1名で、年齢は23～69歳、平均年齢は47.5±8.0歳であった。職業は養護教諭17名（2～34年経験）、助産師18名（6～43年経験）、保健師11名（1～34年経験）、教職10名（12～29年経験）、NPO法人活動7名（4～20年経験）、看護師4名（8～27年経験）、医師3名（経験：17・20・42年）、その他は福祉関係1名（10年経験）や主婦など含む13名であった。ハートブレイク研修受講者は51名（思春期保健相談士コース修了者は26名）であった。

#### 2. 思春期支援の現状

回答者84名のうち、新生児・乳幼児、小・中・高校生、学生・成人のいずれにも関わっていない思春期支援者は教職と主婦、それぞれ1名であり、82名はいずれかに支援者として関わっていた。小・中・高校生の複数又はいずれかに関わっているとしたのは76名あった。集団への支援を思春期の対象に実施したのは25名、個人対象が42名、集団・個人の両方への支援実施は17名あった。

支援した個別対象は「本人・親・親子一緒」が33名、本人のみ15名、他関係者4名であった。その支援・相談内容は複数回答の数では、性行動が40名で最多であり、妊娠と思春期精神的問題相談がそれぞれ35名、性被害15名などであった。支援成果として複数回答で、26名が「対象の行動変容により問題解決した」とし、17名が「対象

の自立・解決力増強により問題解決した」、「受診・治療により解決した」のは23名、8名が問題解決はしなかったとしていた。

3. 研修への要望等

ハートブレイク研修への講座要望内容では、「性教育実践者向け」が36名で多く、その他、表1のようであった。

表1 ハートブレイク研修への要望講座内容（複数回答）（名）

性教育実践者向け	36
しょうがい者への支援	34
父親・母親向け（子育て）の講座	31
子供向け（親子）の性教育	30
セクシュアリティの基本	21
スーパービジョン	19
電話相談者育成	18
児童養護施設関連	17

養護教諭17名のうち、「性教育実践者向け」11名、「しょうがい者への支援」7名、「父親・母親向け（子育て）」・「子供向け（親子）の性教育」は各々8名が希望していた。助産師18名のうち、「性教育実践者向け」9名、「父親・母親向け（子育て）」8名、「しょうがい者への支援」・「子供向け（親子）の性教育」・「スーパービジョン」はそれぞれ6名が希望していた。

保健師11名のうち、「しょうがい者への支援」・「スーパービジョン」・「性教育実践者向け」はそれぞれ4名、「父親・母親向け（子育て）」・「子供向け（親子）の性教育」をそれぞれ3名、希望していた。

教職10名のうち、「性教育実践者向け」7名、「しょうがい者への支援」5名、「子供向け（親子）の性教育」3名、「父親・母親向け（子育て）」2名、「スーパービジョン」1名が希望していた。

医師3名のうち、40歳代の2名が「児童養護施設関連」、60歳代の1名は「性教育実践者向け」を希望していた。看護師4名のうち、40歳代の1名が「しょうがい者への支援」・「子供向け（親子）の性教育」を希望し、3名が共通して「スーパービジョン」を希望していた。

NPO 法人活動7名のうち、共通して4名が「父親・母親向け（子育て）」・「子供向け（親子）の性教育」、「電話相談者育成」が3名、「児童養護施設関連」・「しょうがい者への支援」・「性教育実践者向け」を2名ずつ希望していた。

4. 将来、自分自身、身に付けたい能力

今後、自分自身の身に付けたい能力としては、「発想転換能力」41名、「講演時の表現力スキルアップ」40名、

次いで「自己の受容力拡大」38名、「思春期対象の観察力（眼）」が38名、「個人対象への対応指導能力」33名、「個人指導技術」22名あった。

年代別・職業別では、複数回答で表2・3の様であった。

表2 将来 身に付けたい能力 年代別（複数回答）（名）

身に付けたい能力	年代	20-30代	40代	50代	60代他未記入
個人対象への対応指導能力		5	16	10	2
個人指導技術		6	11	5	-
自己の受容力拡大		7	20	10	1
発想転換能力		6	23	12	-
講演時の表現力スキルアップ		5	20	13	2
思春期対象の観察力（眼）		5	15	16	2

表3 将来 身に付けたい能力 職業別（複数回答）（名）

身に付けたい能力	職業	養護教諭	助産師	保健師	NPO 活動
個人対象への対応指導能力		10	7	4	2
個人指導技術		8	3	5	-
自己の受容力拡大		12	8	6	3
発想転換能力		9	10	8	2
講演時の表現力スキルアップ		10	10	8	3
思春期対象の観察力（眼）		9	7	7	4

結果の総括

今回の回収率が2割に満たない程、低かった理由として考えられるのは、調査対象者の中に「思春期対象の活動を現在休止中にて、リストから削除希望」と申し出た方があり、この方のように、退職・転勤・担当・配属の変更等により思春期対象の活動を休止している者が多く含まれていた可能性があることも考えられた。また、調査時期が12月という繁忙期に重なったことも理由のひとつとして考えられる。しかし、逆にいえば、回答者の多くは思春期支援に積極的であり、現在活動中もしくは活動を模索しているので、研修開催に関するニーズを表現し、回答したと考える。従って今回の調査結果は、今後の指針に貴重な資料になり得ると考え、分析した結果をこれからの研修企画に反映させたい。

現在、思春期支援の実践活動や研修開催などを行っているハートブレイク主催研修への講座要望内容では、「性教育実践者向け」「しょうがい者への支援」などが4割を超え、実際に実践している思春期支援者が要望する内容となっている。「父親・母親向け（子育て）」・「子供向け（親子）の性教育」も3分の1を超え、子どもの性教育の実践で活用を望む支援者の内容となっている。

思春期支援者が自分自身の身に付けたい能力として、「発想転換能力」と「講演時の表現力スキルアップ」が半数あった。次いで「自己の受容力拡大」・「思春期対象

の観察力（眼）」や「個人対象への対応指導能力」を4割が身に付けたいとしており、これらは思春期支援の基本であり、画期的に必要とされる能力を身につけて、思春期支援を実践したと考えている要望を確認した。

回答者が支援・相談に関っている内容を性行動、妊娠と思春期精神的問題相談が多いとしており、関わる対象も小・中・高校生の複数又はいずれが多いので、支援者の能力やスキルも対象や環境に合わせ、向上していく必要性が確認された。よって、次のステップとして、実際にその因子を含め、新しい方法を研修計画にとりいれるための探求や研究、幅広い調査を進めたい。

今後、研修内容にこれらの能力養成に必要な様々な手

法を取り入れながら研修を実施し、その評価を直接的に、また、継続的に研修計画に取り入れたい。思春期支援を必要としている対象の母性・父性育成を促進していく支援者に、より効果的な実践・支援のスキルアップの研修計画を実施、その後も支援をしていきたい。その後、若い年代の実践支援者が育成され、より効果的な思春期対象への支援が行われ、その年代の対象がいずれ妊娠して子育てを始める豊かな完成を持ったおとなへと無事成長していける可能性に向けて、支援・実践力を備え、活動のコアとして機能することができるような支援研修企画を進めて行きたい。